

第 11 回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres (東京都)
平成 29 年 10 月 26 日 (木) ~28 日 (土)

「塗り絵」をすることによって、症状が改善した心因性振戦の 1 例

医療法人 聖志会 渡辺病院

○ 稲山靖弘 西幸宏 渡辺浩年

80 歳代後半、男性、COPD、心不全、頸部脊柱管狭窄症、変形性腰椎症にて近医通院中。X-2 年の飼い犬の死を契機に物忘れ、頻回の転倒が出現したため、X 年 2 月、当院受診。杖を使用し、右上肢の振戦、固縮を認める。HDS-R:23 点、立方体模写:不正解、SDS:60、TUG28 秒、UPDRSpart III 28、Hohen&Yahr Stage I、頭部 MRI:VSRAD:1.46、脳血流 SPECT:頭頂葉、後部帯状回に血流低下。MIBG 心筋シンチ:H/M 比の低下。胸部 MRI:頸部脊柱管狭窄あるも頸髄に変性なし。

以上から、アルツハイマー病、パーキンソン病、うつ状態が考えられた。従来の内科治療を継続しながら、週 1 回、指体操、しりとり、塗り絵といった認知リハビリテーションを行ったところ、X+2 年、振戦、固縮が消失した。

さらに HDS-R は 30 点、抑うつ気分も消失し、緻密な「塗り絵」を作成するようになった。本例は、アルツハイマー病、パーキンソン病、抑うつ気分を伴った適応障害が考えられたが、抑うつ気分の改善とともに運動症状が消失したことから、心因性振戦と考えられ、認知リハビリテーションが良好な影響を与えたと考えられた。